

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org



皆さん、こんにちは。いよいよ師走。今年も一年、ご愛読ありがとうございました。年末に向けて、くれぐれもご自愛ください。

かわら版では日常会話の中に含まれている仏教用語をご紹介します。知らず知らずのうちに使っている仏教用語。それだけ日本人の生活に溶け込んでいるということ。

普通の年末が戻ってきました。繁華街の人出も多く、コロナ禍の最中はガラんとしていた映画館なども大盛況です。どこもかしこもガランドウのようだったのが嘘のようです。と言って使った「ガランドウ」は「伽藍堂」と書く仏教用語です。「ガラんとしている」の「ガラ」も「ガランドウ」から派生した表現です。

「伽藍堂」はお寺の建物を意味する「伽藍堂宇(がらんどうう)」の略です。お寺の本堂などは大ききの割には中にあまり物が置かれていないので、「がらんどう」は大きい空間や、部屋や建物の中にあまり人がいない状態、物が無い状態を表す日常用語になりました。

古代インドでは出家遊行者が集まって修行する清浄な場所のことをサンスクリット語で「サンガラーマ」と言いました。

「サンガ」と「アーラーマ」の合成語です。

「サンガ」は「和合」を意味し「人々の集まり」「仲間」のことであり、言わば仏教教団そのものを表していました。漢字に音訳されて「僧伽(そうぎや)」と書きますが、お坊さんのことを「僧」と言うようになったのも「サンガ」に由来します。

「アーラーマ」は「休息」または「休息の場所」を意味し、漢字に音訳された「藍摩」と書きます。そして「僧伽」と「藍摩」が合体して「僧伽藍摩(そうぎやらんま)」です。

「僧伽藍摩」がやがて短縮されて「僧伽藍(そうぎやらん)」となり、さらに略されて「伽藍(がらん)」という言葉が日本に伝わりました。

お寺にはいろいろな種類の建物がありますが、正式には七つの建物が揃うことが必要だと言われています。どの建物を七堂伽藍として数えるかについては宗派によって異なります。一般的に七堂伽藍は、金堂・講堂・鐘楼・経蔵・僧房・食堂・仏塔です。禅宗の場合は、山門・仏殿・法堂・庫裡・僧堂・浴室・東司を指します。

この七つ全てが揃ったお寺のことを「七堂伽藍」と呼びます。

これが転じて、たくさんの塔頭寺院や建物を擁する大寺院の別称として「七堂伽藍」と表現するようにもなりました。

七堂伽藍が揃っている有名なお寺は、例えば臨済宗妙心寺派の大本山妙心寺です。京都市右京区花園にあり、安土桃山時代から江戸時代に建てられたものが多く、近世禅宗寺院の典型的伽藍配置を示しています。

曹洞宗の永平寺も七堂伽藍です。福井県吉田郡永平寺町にあり、道元禅師によって開創され、現在でも曹洞宗の修行僧(雲水)の修行場となっています。

普段は「がらんどう」の「伽藍」ですが、法要などがあると大勢の人がお堂の中に入り、礼拝、読経します。お堂の中に人が溢れるほどに入っている状態は「満堂(まんどう)」と言います。「満堂」になるような機会にはなかなか遭遇しませんが、そういう場合にはお坊さんが「御満堂ありがとうございます」とおっしゃるはずですよ。

コロナ禍も終わった今年の年末は、お寺もご満堂になるかもしれませんね。それでは皆さん、よいお年をお迎えください。来年もよろしくお願いたします。

※



豊田 中日文化センター

仏教にふれて 心穏やかに生きる

「仏教にふれて心穏やかに生きる」の第2弾です。良いこともあれば、悪いこともあるのが人生です。楽しい時もあれば、辛い時もあります。今から2500年前のお釈迦さまに始まった仏教は、私たちに「何か」を教えてくれています。「どこか」に導いてくれています。過去6回も振り返りながら、いくつかの話題からその「何か」と「どこか」を考えます。

- 第7回 1月14日(日) 13:30-15:00 「葛藤」のない生き方
- 第8回 2月11日(日) 13:30-15:00 「自業自得」の生き方
- 第9回 3月10日(日) 13:30-15:00 生きることの「不思議」



※お申し込み・詳細は豊田中日文化センターまでお問合せください。右のQRコードから豊田中日文化センター講座HPが開きます。



大塚耕平事務所 かわら版担当: あさい TEL 052 757 1955

